

トロイのはっぱ

多田龍介

◆ 目次

不感症

6

お国ちゃん

8

口達者

10

パンダも参る

12

カルピスに問う

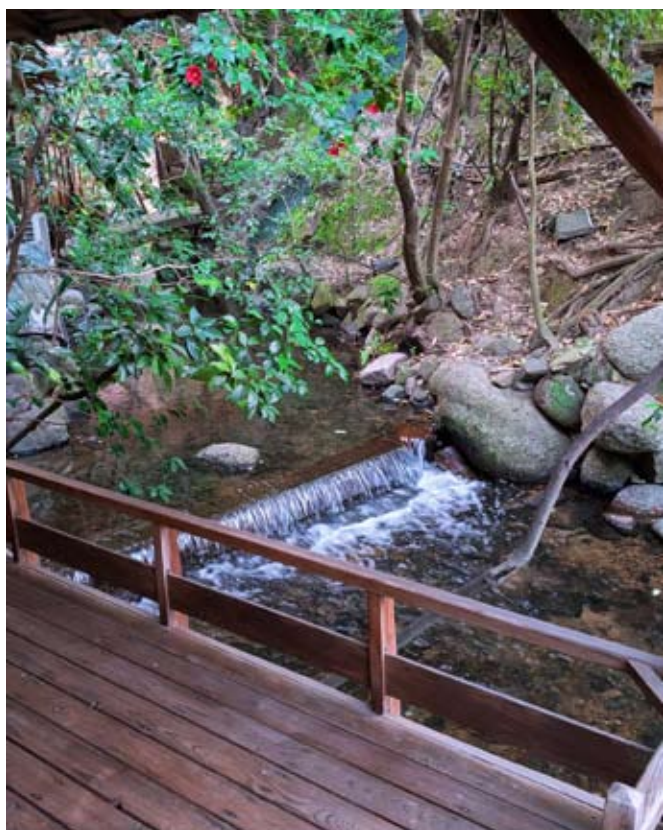
14

狂気類型

16

あとがき	27
非戦五句	26
荒廃状態	24
野獣派	22
小宇宙	20
粹	19
トロイのはっぱ	18





## 不感症

A Iに向かつてレスバトルを仕掛ける民を見た  
いわく、おまえパヨクだろ、云々  
なんとけなげな

人だと思ってるうゝ

im so happy cos today i found my friend  
というわけだった

理知的であることそのものが

怒りを買うのだ

野蛮人にとっては

僕、野蛮人、キライ

しかしそれほど話相手になってやれるとは  
AIもなかなか  
怒って壊れなければいいのだが

お国ちゃん

国と自分を同一視して  
国すごいから俺もすごいと  
やりたいわけです  
持たざる者は  
つらいよな

が、すごいのは  
僕、個人であつた  
君はそうでしょうけどね  
スキル、知恵、誠実さ  
僕はそうでしょうけどね



国というものが  
いかに民を虐<sup>しい</sup>げ<sup>う</sup>るか  
救わないか  
あてにならないのだ  
あてにしないほうがいい

## 口達者

よく見られるのが  
言葉ではなく行動という説教

三十年間足踏みしてたやつらが  
何言ってるんだと

僕思っわけです

僕が動かなかったからじゃないですかと  
言われる

手錠にロープに亀甲縛りをして  
おいて  
何を言っておられるのかと  
僕思っわけです

もともと詩人なので

言葉なのです、祈りなのです

君は動いたら？

神よりの保証は既になしなんだから

パンダも参る

誠実な人が好きですって  
そうして人を追い詰める

誠実ってどういうの  
会いに来て

三食昼寝付きマイホームを提供  
とかじゃないですか

セフレになってくれとか言わない人ですって

おっと、誰かに言われたんですか

伝文で人を選評

それこそが不誠実なのではないのですか

そこへギャラリー

アス。ぺかおまえ

憤懣<sup>ふんまん</sup>やるかたなかった

カルピスに問う

だつてぐちゃぐちゃ言つてるだけで  
できる感じ全然しないんだもん

できないでしょうね

だつて原液がないんだから

夢を語るものは

夢を実現しないがち

これは実現するというよりはむしろ  
くっちゃべつてる間に喜びがある

女の相談が

解決を求めていないのと似ている

しかし己の満足のために  
人の原液を利用しようというのだ

傲慢だとは思いませんか

といえどもうジェイソンはすぐ近く

お慈悲を！

## 狂気類型

差別と区別とは

そうかそうか

狂人の言葉が

そんなに自己防衛に役に立ったか

人の間に垣根を作るな

これ、もと垣根を作ったのはやはり精神科医

鬱Ⅰ型 鬱Ⅱ型

珍型 穴型 誤型

もう、狂ってしまったんだね

もう、何を言っても

届かないよね



さようなら、  
じゃああつ  
p

トロイのはっぱ

いやに初歩的なことから始めて恐縮だが  
原稿がなければデータは組めない、right?

二か月まるつとは制作期間ですらない  
原稿が、ないのだ

彼は何を焦っているの？  
ぶっ飛ばしてもいいですか

これもいい、あれも素敵ね  
きやつきやつ、うふふではない

という酒を煽り  
体を壊していたのだった

粹

何だ、不満か？

君もいきがりたまえ

いきがれるように生きてこなかった  
おまえのミスだな

と、ここで、この歳にもなつてくると  
人の不幸を笑えなくなり

身につまされるんです

明日は我が身と

人、いきがるとき嘲るなかれ  
生き甲斐があるから、いきがれる

## 小宇宙

人が住めないほど熱くなる  
あり得る

50℃を基調とした気温  
あり得る

地球にやさしくとか  
人間は驕ったが

人間がいなくても  
地球は全然かまわない

なぜこんなに暑い？

僕の内臓が焼けているからだ

酒をやめれば

あるいは寒冷化するやも

土台無理な相談だ

しかしこのままでは

命に関わる

考えておこう

## 野獣派

自由とか

いいですか

自由な人を

S N Sに見て

平等とか

いいですか

実際

平等じゃないし

博愛とか

いいですか

誰も選ば

ないってこと

こうして

アンチ近代の

論陣は

張られ

上品に

口を拭って

コロナ

ワクチン

もう十分  
野蛮人は

待て待て  
いやだった

十分だった  
侵攻した

野蛮人も  
そりゃそうだ

## 荒廃状態

書けば伝わるよ

やーさんに、キチ○イに  
伝わらないほうがいいか

伝えてどうしたい

わからせたい、ひいては  
相手の行動の変容を

しかしもうわかったが

他人<sup>ひと</sup>は変わらない

人の話も聞いてない

相手を変えたいの果ては

思想矯正所

さすがにそれは



コミュニケーションの試みに  
完全に絶望すると

口を開いて虚空を見つめる

ただ時は、過ぎていきます

それでもいいか

寝ている時も、わりと問題ない

## 非戦五句

いいんです、僕もおかしいんですから

平和よし。超過死亡者、平和なし

責めるかや。ファンがすぐ仇<sup>あだ</sup>、打つ仕組み

実にこれ、真<sup>まこと</sup>は胸を打つのだと

静かです。みんな帰ったのではないか

## あとがき

この小冊子は二〇二五年七月から八月にかけてネットに投稿した作品十二編をまとめて収めた。

時期的にいうと父の死後一年、少し落ち着いてきて心に余裕もでき、しかし私は詩の投稿フォーラムの方たちとアンソロジー詩集の製作にも挑んでいた。すったもんだ四苦八苦、忙しくしていたように思う。それが幾分か作品にも反映されている。

その後、十月だか十一月だかにそのアンソロジーは無事できたので、これも詩人の方たちに感謝したい。

それでは、読んでくださってありがとう。また。

二〇二六年二月二十七日      多田龍介

トロイのはっぱ



令和八年三月三日 初版発行

著 者 多田 龍介

発行者 多田 龍介

発行所 明水 工房